



夢の翼



H26. 11. 27 (木) [第16号]

☆『よく聴く』ことが基本！～進路講演会より～

11/17 (月) 6 時限に「自分の進路を考える」という内容で進路講演会が行われました。講演の中で、求められる人物像として、コミュニケーション力〔大人の人と普通の会話ができること〕が上げられていました。このコミュニケーション力の基本は「聴くこと」から始まります。「聴くこと」とは、「耳を傾け、相手の心に寄り添いながらきく」(「聴」の漢字を分解すると「耳+十+四+心」で耳だけでなく十四の心で聴く)ことであり、「音として会話をきく」「情報を耳に入れる」といった意味の「聞くこと」とは違います。正しい聴き方を身につけられれば、相手との信頼関係をより深め、たくさんのお話を聴き出すことができ、その結果相手との良好な関係を築いていくことができると思います。また、講演の締めくくりに、講師からあった『至誠にして動かざるは 未だこれ有らざるなり』という吉田松陰の言葉(松陰が『孟子』から引用したもの)ですが、「誠意を尽くして事にあたれば、どのようなものでも必ず動かすことができる。」という意味で、物事や人を突き動かす上で「誠」がいかに大切かを説いている言葉なのです。



☆『芸術鑑賞会』

11/20 (木) に成田国際文化会館で行われた芸術鑑賞会は、オペラ『カルメン』でした。時間を忘れるくらい素晴らしい歌劇でした。生徒会副会長の白坂君には思い出深いものとなったことでしょう。



☆台湾学⑬『台湾といえば』

今回も「台湾といえば思いつくものベスト10！」のアンケート結果からの紹介です。

『第4位 故宮博物院』

世界に名だたる美術・博物館のひとつに数えられているのが台北にある『故宮博物院(グ-ゴンホ-ウ-ユ-ン)』です。3ヶ月毎に展示品を入れ替えているのですが、全ての展示品を観終わるのに10年かかると言われています。



代表的な所蔵品である

「翠玉白菜」の葉の上

に彫刻されたバツタと

キリギリスがスゴイ！



☆『期末考査10日前』

“能力の差は小さいが、努力の差は大きい！”のです。毎日の授業を大切に！

今月の生活目標★校外でも制服をキチッと着よう&交通安全★



「聴く」は、「耳を傾け、相手の心に寄り添いながらきく」といった意味になります。この「聴く」という漢字を分解してみると、下記のようになります。耳 + 十 + 十 + 四 + 心 耳だけでなく、十四の心で聴こうという意味です。また「聴く」とは、耳に目と心を+しているから、心をこめて、心の目で見て感じて聴くことが非常に大切だと思います。なんだか金八先生のような話になってきましたが、ではここで、「十四の心」とはどんな心なのか話をします。

1. 「美」しい心で聴く
2. 「新」しい心で聴く
3. 「広」い心で聴く
4. 「楽」しい心で聴く (きいて、たのしくなる)
5. 「嬉」しい心で聴く (きいて、うれしくなる)
6. 「面」白い心で聴く (きいて、おもしろさがわかる)
7. 微「笑」みの心で聴く (きいて、ほほえましくなる)
8. 素「晴」らしい心で聴く (きいて、すばらしさがわかる)
9. 「悲」しい心を聴く (かなしみを共感する心できく)
10. 「苦」しい心を聴く (苦しみを共感する心できく)
11. 「愛」しい心で聴く
12. 「労」わる心で聴く
13. 「憂」う心で聴く
14. 感「謝」する心で聴く

「聴く」は、耳・目・心を持って聴くとも言われます。
また、「聴」と言う字は

「徳を持って耳を傾ける」という意味でもあります。

相手の話をしっかりと傾聴するには

テクニックの前に、こういった心構えが大切なのですね。